

算数科学習指導略案


2年2組 33名 指導者 橋口和洋

本授業では、以下の検証を行うものである。
 大事なことを順序よく整理し、ブロックを動かしながら「伝え合う活動」は、ひき算のいろいろな計算のしかたを考え、意味理解を深めることができるか。

1 題材 計算のしかたをかんがえよう

2 指導計画 (総時数1時間)

 指導に当たって

小題材	育てたい力 思考力 判断力 表現力 実践力	主な学習活動	評価規準	算数的活動の類型化及び活動例	
				動かす 調べる か 伝え合う	算数的活動
計算のしかたをかんがえよう	○ ○	1 25-13の計算のしかたを考える。 問題場面を具体的に把握できるようにし、ブロック操作をしながら計算のしかたを考えることで、減法の意味理解を深め、「ひき算のひっ算」の学習へ活用できるようにする。 	数学的な考え方	○	ブロックを使って「ひき算の計算のしかた」を説明する活動

3 本時 (1/1)

(1) 目標

(2位数) - (2位数) の計算のしかたを、既習事項を使って考えることができるようにする。

(2) 評価規準

(2位数) - (2位数) の計算のしかたを、おはじきや図、ブロックなどを使いながら、位取りに気を付けて計算することを考えることができる。 【数学的な考え方】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、問題場面の写真を見せ、具体的な場面把握ができるようにする。また、問題場面における大事な言葉に目を向けさせることで、ひき算の思考のしかたが組み立てられるようにする。さらに立式した式と今までのひき算との違いを考えさせることで、本時の学習問題の焦点化を図ることができるようにする。

「見通す・見つける」過程では、おはじきや図、絵、ブロックなどを使って、立式した式の答えを見つける活動を行う。式と半具体物操作とを対応させることで、ひき算への理解が深められるようにする。また、操作による「調べる活動」が充実できるように、机間指導の際、様々な表現方法に意識が向けられるような言葉掛けを行ったり、紹介をしたりする手立てを行う。

「磨き合う」過程では、位取りに注目させ、ブロックを使った計算のしかたの説明ができるようにする。「10のたばとばら」、「十のくらいと一のくらい」という言葉を使って説明することにも価値付けを行い、「伝え合う活動」での言語活動の充実により、ひき算の計算のしかたをじっくりと考え、意味の理解が深められるようにする。

「振り返る」過程では、練習問題にチャレンジすることで、計算のしかたが定着し、次題材の「ひき算のひっさん」の学習に発展できるようにする。また、子どもたちの頑張りを称賛し、学習意欲の持続もねらうことができるようにする。

最後に、学習全体を通して、ICT機器(コンピュータ、デジタルテレビ、書画カメラ、デジタルカメラなど)を活用することで、学習のよりよい充実が図られるようにする。

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価	
7 (分)	つかむ	<p>1 学習課題を受け止める。</p> <p>みえ子さんはクッキーを25こつくりました。13こをけんじさんにあげました。クッキーは、なんこのこっているでしょうか。</p> <p>・はじめに、25こあったんだよね。 ・つぎに、13こあげたよね。 ・あげたから、はじめのクッキーはすくなくなったんだよ。 ・のこりは、はじめより少なくなるからひき算だね。だから、$25 - 13$だ。</p> <p>2 本時の学習問題をつかむ。</p> <p>$25 - 13$の計算はどうすればできるのだろうか。</p>	<p>問題場面の写真を見せ、具体的な場面把握ができるようにする。 デジタルテレビ</p> <p>場面把握の中で、「あげる」という言葉に着目させ、「あげる」→「すくなくなる」→「ひき算」と思考できるようにする。</p> <p>立式できた$25 - 13$と、既習事項のひき算とのちがいに気付かせ、学習問題の焦点化を図る。</p> <p>「学習のしつけ」定着も意識した声かけや見届けをする。</p>
		<p>3 問題の答えの見つけ方を考える。</p> <p>・ぼくは、図をかいてみようかな。 ・わたしは、ブロックをうごかしてみようかな。</p> <p>4 選択した方法で答えを見つけ、式と対応させる。</p> <p>・おはじきを25こならべて、13こすると、のこりは12こになったよ。 ・●(クッキー)の図をかいてみたら、12こになったよ。 ・ブロックを使っても12こになったよ。</p> <p>5 ブロックを使って計算のしかたを考え、計算のしかたを発表し、話し合う。</p> <p>【◎伝え合う活動】</p> <p>・まず、20を20と5に分けました。次に、13を10と3に分けました。そして、$20 - 10 = 10$ $5 - 3 = 2$ だから、10と2をたして、12になります。 ・25は、10のたばが2こと、ばらが5こです。 13は、10のたばが1こと、ばらが3こです。 まず、10のたばは、$2 - 1 = 1$です。次に、ばらは、$5 - 3 = 2$です。だから、十のくらいが1、一のくらいが2で、$25 - 13 = 12$です。</p> <p>十のくらいと一のくらいに分けて、おなじくらいどうしの数をひくといい。</p>	<p>式と半具体物操作を対応させることをねらいとして算数的活動(「調べる活動」)を行う。</p> <p>場面把握の写真を振り返り、どの子ども「調べる活動」を進めることができるようにする。 デジタルテレビ、書画カメラ</p> <p>「伝え合う活動」を充実させるため、ブロック操作と$25 - 13 = 12$の式とを対応させることができるように机間指導を行う。</p> <p>「10のたばとばら」、「十のくらいと一のくらい」の言葉を使って伝え合うことができるようにする。 デジタルテレビ、書画カメラ</p>
32 (分)	見通す 見つける	<p>6 練習問題にチャレンジする。</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>8 次時の学習を知る。</p>	<p>※ (2位数) - (2位数)の計算のしかたを、おはじきや図、ブロックなどを使って、位取りに気を付けて計算することを考えることができる。(活動、発表)</p> <p>○ 伝え合う準備ができた子どもは称賛し、ノートへ記述させる。 ○ 戸惑っている子どもは、問題場面を再度把握させブロックで表せるようにし解決の糸口を与える。</p> <p>練習問題で習熟を図る。また、次時への学習意欲が高められるよう本時の頑張りを称賛する。 デジタルテレビ、書画カメラ</p>
		<p>6 振り返る</p>	